

地域全体で子育て世帯を支える街づくり シニア世代との関わりを密に、子育て世帯を孤立させないために

城所由樹¹⁾, 隅田健介¹⁾, 笹沼李空¹⁾, 吉田百花¹⁾, 秋山真央¹⁾
ゼミ教員 吉見憲二¹⁾

1) 成蹊大学 経済学部 経済経営学科

キーワード： 共生型施設, 育児, シニア世代, 共働き

1. はじめに

本研究では、三鷹市に学童保育と高齢者施設を一体化した「共生型施設」を運営することにより、子育てと高齢者福祉というふたつのまちづくりの重要課題について取り組むことができ、双方に大きなメリットをもたらすことができることを提案する。新宿までのアクセスが 20 分弱で、総武線の始発駅という三鷹市の交通アクセスの良さを生かすために、子育てしやすい環境や制度を導入することで、子育て世帯を誘致し、街の活性化を図ることを目的とする。

2. 背景

三鷹市の総人口は近年増加傾向にある。全国的に少子化が進む中でも、三鷹市の児童人口は増加の傾向をたどっている。

しかし、その一方で子育て世帯の世帯構成としては、夫婦と子供だけの世帯が 94% であり、子育て中の親子が孤立する恐れがあると考えられる。また、「夫婦のいる一般世帯」の共働き率が平成 27 年 10 月の段階で 45.9% であることや、未就学の待機児童が令和 2 年 4 月段階で 114 人いること、学童保育所の待機児童の存在があることなどから、子育て世帯にフォーカスし、地域全体で育児に協力できる体制を整えることこそ三鷹市の発展に繋がると考えた。

3. 先行事例

提案内容は、学童保育と高齢者施設を一体化させた共生施設である。このような施設の設営によって子育て世帯の負担軽減や高齢者の認知症予防などの効果が期待できる。先行事例として、過去 5 年の間に小学生の人

口が約 34%も増加した千葉県のユーカーが丘がある。

ユーカーが丘は千葉県佐倉市に位置するニュータウンで約 1 万 8 千人(2021 年 9 月末)が住んでいる。多摩ニュータウンなどの大規模なニュータウンを含む多くのニュータウンが高齢化、老朽化によって人口を減らしている中、2011 年から今までに約 2 千人がこのユーカーが丘に住み始めている。さらに、そのうちの 654 人は 9 歳以下の子どもである。このような人口増加の背景には、生涯住みやすいというコンセプトがあることが考えられる。

ユーカーが丘では、コワーキングスペースのある子育て支援センターを設置し、子どもたちが遊んでいる間に働ける環境を作ることで、子育て世帯を支援している。高齢者の人には地域全体として医療・介護を行うシステムを作ることで、安心して暮らせるまちづくりを行っている。このような街づくりを行っているユーカーが丘において私たちが着目したのが上記の通り、共生施設である。

この地域における共生施設「ユーカー優都びあ」では、子どもと高齢者が共生することを通して相互に良い影響を与えている。

事業構想(2015 年度 11 月号)によると、子どもと高齢者が一緒に過ごすことで、子どもたちのパワーが高齢者の感情を動かすというプラスの効果があり、子どももなぜ自分が怒られたのかについて考えるきっかけになるという。また、廊下に荷物が出っ放しになっているときに『片づけなさい』というよりも、『〇〇さんが転んじゃうよ』と言うと、子どもたちは片づけの必要性知り、片付けを意識するきっかけにもなっている。

運営側のメリットとしては、施設を複合的に運営することで土地や建物を有効活用し、建築費や運営コストを抑えられる点が挙げられる。また、子育て中の介護士も同施

設内の学童保育を利用することで、子どものいるスタッフを採用しやすくなるというメリットもある。

ユーカーリ優都びあについて

今、求められている、古きよき日本の姿、人とのふれあいの原点がここに 있습니다。

四季折々の草花が咲き誇る3000坪のケアガーデンに面した緑豊かな場所に建つ「ユーカーリ優都びあ」は、少人数で自発的な生活を送る高齢者グループホームと、放課後の家庭の役割を担う学童保育所を併設した幼老複合施設です。

思いやりや痛み、優しさ、愛情を教えてください。ご入居者の皆様と、小さな体から溢れるパワーと元気を分けてくれる子どもたちが自然にふれ合い、いきいきと楽しく生活しています。






ふれあい 節分 秋の散歩





宿題 グループホームのサンタさん 手作りおやつ

出典：社会福祉法人ユーカーリ優都会公式サイト

4. 三鷹市の現状と提案の意義

まず、育児経験がある 17 名を対象に、2 つのアンケートを実施した。1 つ目の「子育てをする人にとって地域の支えは重要だと感じるか」という質問に対し、全員が「重要である」と回答した。2 つ目の「地域内で子育て家庭を支援するサービスがあれば利用したいと感じるか」という質問に対しては、80%以上が「利用したい」と回答した。

この結果からも、地域全体で育児を支える体制を整えることは重要だと分かる。

その上で、三鷹市における高齢者と子育て世帯に対する支援サービスについて概観する。高齢者に対しては、地域共生社会の実現を基本目標として掲げ、高齢者が健康で幸せに暮らせるように地域包括ケアシステムの推進を図っている。一方で、子育て世帯に対しては、幼児教育・保育の無償化や育児支援ヘルパーなどの充実したサービスが存在している。さらに、「みたか子育てねっと」というホームページでは子育てに関する情報を簡単に手に入れることができる。

このように、それぞれの世代での支援は非常に充実しており、不自由のないものとなっている。しかしながら、どちらも独立したものが基本であるため、これらを掛け合わせることで、より一層どちらの世代も暮らしやすい街づくりにつながるのではないだろうか。高齢者支援の基本目標の地域共生社会の実現にも、共生施設の存在は貢献できるのではないかと考える。未就学の児童と高齢者が触れ合う機会を共生施設の新設やイベントの開催を通して実現できれば、三鷹市全体の人同士のつながりが増え、助け合える環境を作り出すことにつながるだろう。

5. 提案内容の発展性

さらに、象徴的な共生施設の存在を通して、さまざまな世代が育児支援や高齢者支援に関わるようになることも目指したい。例えば、高齢者に限らずとも、子育て支援を受けたい人と援助できる人が会員となり、子育てを助けるファミリーサポートセンターについても、より多くの人が利用できるような発展形態が考えられるのではないか。現在のファミリーサポートセンターで受けられる支援は子どもの一時的な預かりや送迎が主であるが、関わる人が増えることでこのような現在の支援を、より安心して、より一層利用しやすくなることができるかもしれない。

板橋区子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書によると、「ファミリーサポートセンターについて知っていたり、利用したことがありますか」という質問に対して約 40%の人々がいいえと回答しており、まだ浸透していないことが伺える。

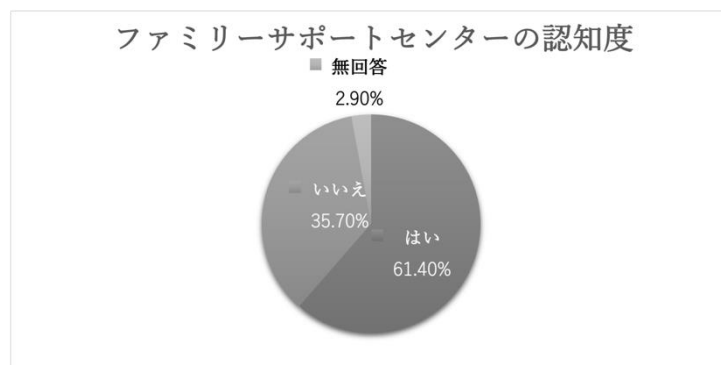


図 1 ファミリーサポートセンターの認知度

出典：平成 30 年 8 月板橋区子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書

ファミリーサポートセンターの利用機会と利用者数の増加を目指すためには、第一に認知度の向上が必要である。これについて、利用会員と援助会員を確保するために 2 点提案していきたい。

まず 1 つ目は、三鷹市内の小学校、中学校、高校と連携して新学期にプリントを配布するというものである。プリントにはファミリーサポートセンターとは何か、登録方法、安全性についての説明を記載し、このプリントを定期的に保護者に配布することで認知度の向上につながることを期待できる。

2 つ目は、出生届をもとに、20 歳になった子どものいる家庭にハガキを送るというものである。これには子育てが終了している親の確保と、次の世代にファミリーサポートセンターの存在を知ってもらうという狙いがある。コストや負担も少ないため、すぐに始めることができるという利点がある。さらに、今後若い世代を確保するために、新たな仕組みとしてポイント制度を追加したアプリの導入も提案したい。これは、援助者側にポイント制度を追加し、利用者の評価に従ってポイントが貯まっていくものとする。そうすることでサービスの質の向上につながる考えた。また、貯まったポイントは地域内で利用できるクーポンと交換できるようにすることで、地域経済の活性化を促進することができるだろう。

6. 提案内容の発展性

こうした施策の中心に共生施設を置くことで、人手不足の分野への労働力提供や自然な情報共有とサービス改善、多世代の話し合いの機会の確保などが期待できる。結果として、地域内でのつながりが生まれ、地域全体として子どもたちを育てるような三鷹市独自のモデルが構築できるのではないだろうか。核家族化の進展や地域のつながりが減ることで子育てしにくい昨今の環境を緩和できるように、本研究の提案を発展させていくことができればと考える。

参考文献

1. 子ども政策部 児童青少年課「三鷹市子ども・子育て支援ビジョン 第 2 期三鷹市子ども・子育て支援事業計画」令和 2 年 3 月

https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/086/attached/attach_86006_1.pdf(2021 年 10 月 25 日閲覧)

2. 「平成 27 年三鷹市国勢調査の要約 ～就業状態等基本集計～」平成 27 年 10 月 1 日

https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/058/attached/attach_58136_2.pdf(2021 年 10 月 25 日閲覧)

3. ユーカリが丘 公式タウンポータルサイト | 千葉県佐倉市ユーカリが丘の地域情報ポータルサイト
(2021 年 10 月 27 日閲覧)

<https://town.yukarigaoka.jp>

4. 子どもと高齢者が同居 「共生型施設」が示す子育ての新しい姿 | 2015 年 11 月号 | 事業構想オンライン(2021 年 10 月 27 日閲覧)

<https://www.projectdesign.jp/201511/child-care-support/002513.php>

5. 多摩ニュータウンの人口問題(2021 年 10 月 28 日閲覧)

https://www.machisen.net/nt_population/population02.php